

# 平成28年度 田原市広報広聴特別委員会行政視察

日 程 平成28年8月3日（水）～4日（木）

視察先 1 「議会の広報・広聴活動について」（東京都東村山市）  
2 「カフェトークふじさわについて」（神奈川県藤沢市）

参加者 委員長 荒木 茂 副委員長 河邊 正男  
委員 杉浦 文平 委員 長神 隆士  
" 辻 史子 " 小川 貴夫  
" 廣中 清介 " 岡本 禎稔  
事務局 議事課長 川合 一子  
書 記 高橋映美子

## 1 「議会の広報・広聴活動について」（東京都東村山市議会）

- 平成28年8月3日（水）
- 会 場 東京都東村山市議会
- 対応者 副議長 伊藤 真一 氏  
広報広聴委員会 委員長 村山 淳子 氏  
副委員長 佐藤まさたか 氏 ほか

### （1）概 要

東村山市は、人口15万人、行政面積17.14k㎡。市民の約30%が東京都特別区部に通勤している。議会基本条例に基づき、議会報告会・意見交換会を毎定例会ごとに開催。平成27年8月の議会報告会から、グループディスカッションや車座形式を導入。テーマ（「市議会のココが知りたい」「住み続けたいなるまち・東村山へ」等）を設けた議会報告会を開催している。開催に際し、事前に全議員で駅前・街頭ピアーアルも行っている。報告会は、毎回2日間開催し、1日目は平日の夜間、2日目は週末の日中。手話通訳も行う。政策形成へのフィードバックが課題。議会だよりは、タブロイド版で全戸配布。閉会からおおむね1ヶ月後に発行。1号あたり委員会を5回開催し、テーマ、掲載議案の協議、原稿チェックを含む第1稿までを委員会が担当している。



## (2) 参考になった点

### 議会報告会

- テーマを決めての意見交換会（グループディスカッション）は、発言がしやすく、参加者の多くの人が発言できる。  
一部の強い声を発する地域や人の要望合戦にならず、テーマを設定して市民と共に意見・提案していく関係、努力をしていきたいとの思いを市民に発信している姿が大変に参考になった。
- 市民に開かれた議会を目指し、冒頭で議会の概要を説明している（10分程度）。市民にわかりやすい丁寧な説明ができることが大事であり、東村山市議会が議会そのものについての説明資料を作ったことは大変参考になる。一般の方が知っているようで実はあまり知らない議会の仕組みなどを説明することで、市民と議会の距離がうんと縮まることは自分自身の活動報告会でも経験している。
- 報告会の事前周知は超党派で行っている。（駅前や街頭ピアーアル）
- 報告会終了後は、記録とアンケート集約をし、1週間後には広報広聴委員会でまとめ、議長へ報告後、市議会ホームページで公表している。
- 議員と市民との距離が縮まることが重視されている。他の市町の議員が入ることもあり、市町が違ふと意見も違ふとのことで参考になるようだ。こういうウェルカムな姿勢は大事だと思う。

### 議会だより

- 公共施設のみでなくコンビニにも置いている（若者に政治・議会に関心を持ってもらうため）。

### その他

- 議会が開催されていることを告知するポスターを貼っても傍聴者数が増えたということもなく、過去に休日や夜間の議会を開いてみても結果は芳しくなかったとのこと。傍聴時の記名は不要、傍聴席における録音録画も邪魔にならなければ可能となっているが、平成25年のツイッター運用開始が物語る通り、議会へのアクセスもSNSが主流になりつつあるようだ。
- 議会ホームページも、広報広聴委員会が積極的な更新を行っている。
- 東村山市の公式キャラクターがついたポロシャツが良い。田原市（議会）ももっとキャベゾウ、カイくんを全面的に出し宣伝すべき。



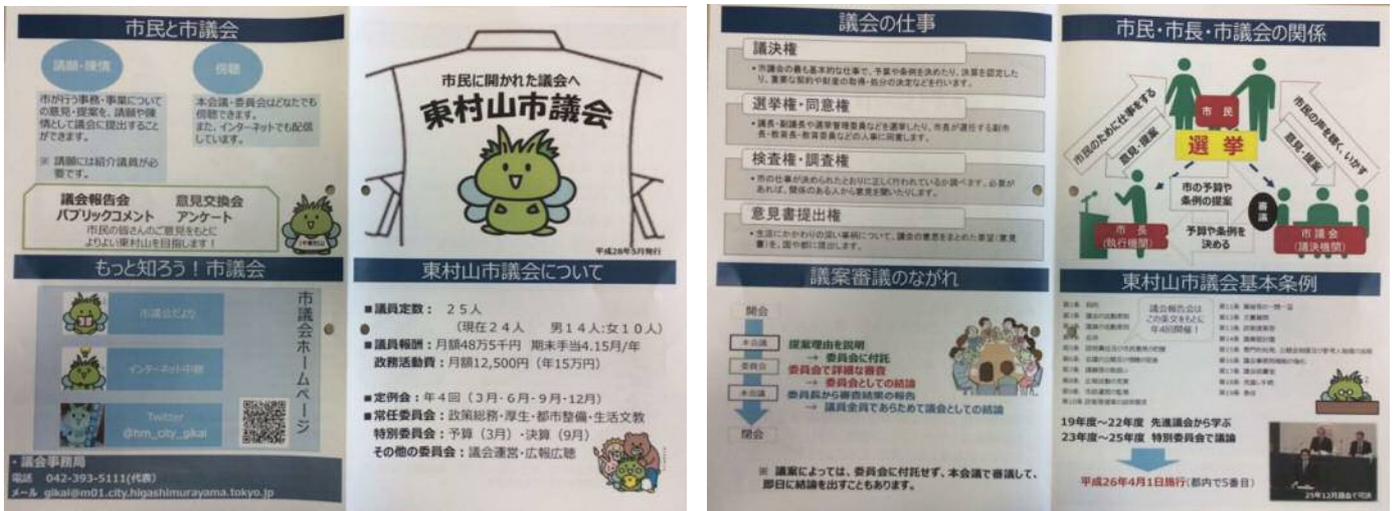
### (3) 所感

#### 議会報告会

- 議会報告会のあり方について、振り返る時期にきていると、先進的な取り組みの話を伺い強く感じた。議会改革は何のためにあるかまた検証をしていきたい。
- 今まで以上に住民との距離を近くし、意見を聞く方法も検討する時期がきているように感じた。
- 議会に対する市民の関心が低いことは承知しているが、それでも本会議などの開催時間帯をずらすことで少しは傍聴者が増えるのではないかと思っていた。しかしながら東村山市議会では既に試行しており、あまり効果が期待できないようなので、SNSなどによる公開に期待したい。
- 案内チラシには工夫が必要。
- 事前告知を回覧板だけでなく委員会メンバーで、駅でチラシを配るなどのアプローチが必要ではないか。
- テーマを決めて報告会をすることは良いと思う。市民祭りの時にでもやってみては。
- 検討事項：休日の午後開催、キッズスペースの導入、手話通訳者の導入、市民まつりの「何でも言って委員会」の際の、のぼりの活用と祭りにふさわしい企画の検討。

#### 議会だより

- 田原市もタウン誌的編集にしている。コンビニの協力を得て、若者に読んでもらい、議会や政治に関心を持ってもらう努力が必要。



## 2 「カフェトークふじさわについて」(神奈川県藤沢市)

○平成28年8月4日(木)

○会 場 神奈川県藤沢市議会

○対応者 広報広聴委員会 副委員長 有賀 正義 氏  
議会事務局 議事課主幹 田口英太郎 氏

### (1) 概要

藤沢市は、人口42万人、行政面積69.57k㎡。

議会基本条例に基づき、議会報告会・意見交換会を実施している。

平成24年度から、年に1度、議会報告会を開催。参加者の偏りや、固定化、市民と議会に対立的なムードが生まれる、市政全般に対する苦情が多い等、課題が多かったため、5月の報告会は、「カフェトークふじさわ」と題し、ワールドカフェ方式(※)による意見交換を実施。2日間で42名の一般、14人の大学生ボランティアの参加があった。テーマは「投票率の向上」。開催に際しては、法政大学牧瀬稔教授のアドバイスをうけている。開催に際しては、文書の回覧ではなく、ホームページや報道発表を活用し、新聞やケーブルテレビで取り上げられた。

議会だよりは、1号あたり委員会を1回開催。

(※)参加者が少人数に分かれ、自由に対話を行い、ときどきメンバーを交換しながら話し合いを発展していく方法。市民5～7人に議員が加わって一つのテーマを話し合う。

### (2) 参考になった点

#### 議会報告会

- 従来の対面形式の議会報告会のデメリットは「対決ムード」を生んでしまうことであったが、これをなくすためにワールドカフェ方式のグループトークにしたとのこと。また、グループトークにしたことで「報告会」という性格をかなり縮小し、意見交換を主とした会に変更している。グループトークにしたことで、愚痴だけあるいは持論だけ言いたい人には参加しにくい雰囲気となり、特定の人持論展開に時間を取られてしまうことは減ったようだが、そういう人を排除するためにグループトーク方式にした訳ではないとのこと。



対決ムードの報告会の中では「やめちまえ！」などの声もあって、報告会に嫌気が差してた議員もあったようだが、やり方を変えたことでそんな議員も続ける気になり、更には「こういう建設的な意見交換ならいいね。」との声も上がるようになって、議員の意識も変わってきたとのこと。

- タイトルが議会報告会でなく、「議員と話そうカフェトークふじさわ」と、ソフトである。
- 純粋に意見交換会に参加したい方だけに、報告会を行っている。
- 議員と市民が共通のテーマで議論する。このことによって市民の考え、議員の考えがお互いの意見として尊重され議論が建設的になる。
- カフェトークは建設的な意見がでる、人の話を聞いて自分の意見も言える、キャッチボールができる。
- 議員と市民が率直に意見を述べあえる場所は議会と議員の距離・壁を取り払う効果がある。お互いの知識・考え方の領域を広げる手法として有効。テーマを決めるのに苦労はあると思うが、まちづくりにとって役割は大いにある。
- 専門家の報告、大学生（若者）の進行は、新鮮で興味がある。
- 珍しいのは参加者の事前応募制を採用していること。午前、午後の2回で、それぞれ21人の一般参加者と大学生ボランティアが参加。法政大学牧瀬教授の講演の後、意見交換というスタイル。
- カフェトークふじさわの画期的な取り組みには新しい議会広報広聴活動のあり方を学ぶことができた。18歳選挙権というときになかったテーマのもと参加者の声を聞き出すという手法は大変参考になった。参加者の満足度は大変重要であり会場にわざわざ足を運んでくれた全員のかたよりのない声を聴く方法としてワールドカフェ方式は有効だと納得できた。
- 専門家のアドバイスを受けて、広報広聴委員会で協議をしている。
- 4つの大学があり、この大学生と連携している、地域を大切にしているの広報活動が行われている。
- グループトークでは大学生がホスト役を務めたが、若い学生の進行ということで小言という人もなく、また学生にとっても年配の人と話ができて良い経験になったとのこと、学生に対する教育効果もあったようだ。
- カフェトークふじさわのポスターが良かった。
- 議会報告会の周知方法として、ケーブルテレビ、タウン誌、地方紙（神奈川新聞）を活用している。

## 議会だより

- 議会だよりの編集を業者にたのんでいるのは一考か。
- 町内会やコンビニなどに議会だよりをおいて広報に努めている。

### (3) 所感

#### 議会報告会

- 田原市議会の議会報告会も、特に議題があるとき以外は出席者も低調で、意見も常連に偏りがちであり、今後何らかの形でスタイルの変更を検討しなくてはならないのでは。  
新たな議会報告会の方向性を、決めていく時期にきているのではないかと。まずは議会報告会の名称変更等、取り組むことを実行していくことではないかと思う。
- 対決ムードを回避するためにグループトーク方式とし、市民の方との意見交換に重きを置いて広聴という方向に大きく舵を切っていることは、単なる報告会ではなく建設的な意見交換の場として成功しているように思う。田原市でも取り入れてみる価値はありそうだ。
- 女性、若者、高校生、大学生、学校教育の現場などへまちづくりに対して議員と一緒に話し考えてもらう努力をするべきであることを藤沢市の取り組みを伺い強く感じた。広報広聴のあり方について今後の課題に向けしっかり取り組みたい。
- 専門家のアドバイスを受け、報告会を充実させるための意見を聞けることは藤沢市議会にとってとても大きなことであると感じた。特に専門家の方は大学教授であるし、この報告会に現役大学生が手伝って頂けることは政治への若者の参加意識を向上させることになるや意見を聴けることは、地域にとってプラスである。田原市も近隣の市にある愛知大学等(地域政策学部)、若者の力を借りながら、報告会を行うことも検討してもよいと感じた。
- 藤沢市議会では、議会報告会にワークショップを取り入れ、参加者全員が意見を述べ、相互理解を深めて、参加者が満足していた。この方式は、今後参考にしたい。
- テーマを市民の関心のある事で計画すれば、参加者が増すのではないかと。
- 広聴の在り方からすれば、今のやり方よりテーマを決めてカフェトーク形式も研究すべき。
- カフェトークのポスターは、すごくセンス良くお洒落に仕上がっており、視覚的な効果はあったと思うが、逆に会場が殺風景であつたらしい。今後に向けての課題として「会場の雰囲気づくり」が挙げられており、藤沢市では BGM やお花を考えているようであるが、田原市でも同様にひと工夫ほしいところ。
- 議会報告も一緒にやるとなれば時間的問題・カフェトークの性格からいって少し無理があるのではないかと。議会報告会の在り方をどうするのか検討が問われるのではないかと。

